

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201067		
法人名	株式会社 エイム		
事業所名	グループホーム若竹 1階		
所在地	愛知県一宮市せんい3丁目9番25号		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyouvoCd=2372201067-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に添った支援を心掛けています。利用者、個々の残存能力及び、有する能力が発揮できるよう、手をだし過ぎない支援、又、認知症の進行を防止すべく会話に重きをおき、利用者、一人ひとりに対する会話、コミュニケーションの時間を大切にすると共に、肌で四季を感じて頂けるよう社会交流に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営法人は、複数の介護事業所を運営しているが、当ホームが法人が初めて手掛けた介護事業所でもある。法人の理念でもある「アットホームな介護」は当ホーム開設時に考えており、関連ホームでも基本理念となっている。ホームでの様々な取り組みから得た経験が、その後の関連事業所の運営に活かされており、関連事業所の職員の参考にもつながっている。ホーム内は家庭的な雰囲気をつくりながら、日中は玄関に施錠を行わない対応に取り組んでいる。ホーム玄関についてはベンチが置かれてあり、利用者の中にはベンチに座って過ごしている方もあり、毎日の生活を好みの場所で過ごすことができるような配慮が行われている。また、法人の関連事業所で行事が行われる際には、ホームからも利用者とは出かけており、利用者同士の交流と外出の機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念、ホームの基本理念をよく目につくり壁の壁に掲示し、毎日の利用者との関りの中で確認し、理念の共有に努め、実践に繋げている。	ホームの開設時につくった理念であり、アットホームな雰囲気をつくりながら、利用者に安心して過ごすことができるホームを目指した内容となっている。日常的に職員間で理念を意識し、支援への反映につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板、広報を活用。地域の行事に積極的に参加している(せんい団地清掃デー、七夕、敬老会、地域の祭り、町民運動会等)散歩や買い物等、外出の際は挨拶を交わしふれあいの機会をもうけている。	地域で行われている運動会や文化祭等の行事の際には、ホームからも参加する機会をつくっており、交流の機会につなげている。また、ホームにもボランティアの方が訪問する機会があり、ホームを知ってもらう機会にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会を通じて、地域への呼びかけ及び、中学生等による職場体験等の受け入れ体制がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で地域行事等に参加しやすいよう、情報を提供して頂き、参加できた。	会議の際には、地域の方の参加が得られていることもあり、会議を通じて、地域の関する情報交換等が行われている。また、会議を通じた行事を開催しており、ホームの取り組みを知ってもらう機会にもつながっている。	会議の出席者が限定された範囲となっている。ホームでの検討を行いながら、徐々に出席者を増やしていく取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に電話連絡、時には行き来しながら連携を密にし、必要に応じて利用者の生活状況を報告している。	ホームには生活保護の方が生活していることで、担当部署との情報交換等が行われている。市内の介護事業所が集まる連絡会や地域包括支援センターも参加するケアマネ会の際には、ホームからも出席する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市、開催の研修会に参加し、理解を深めている。日中は施錠せず、自由に外出できる体制をとっている。	ホーム内には施錠を行っておらず、職員間で利用者を見守る取り組みや、随時外出する等の対応が行われている。また、職員間で振り返りの勉強会の機会をつくったり、日常的な注意喚起等の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市、開催の研修会に参加し理解を深めている。身体以外にも、言葉による虐待に繋がらないよう、常に職員の中で話し合いを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加している。必要と考えられる利用者は、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、本人、家族等に面会し説明している。又、契約時には再度、説明し書面で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	メール、FAXを活用し、意見箱も設置してある。利用者、家族等が意見、要望が言いやすい環境に努めている。	家族からの要望等については、当ホーム管理者の他にも法人の関連事業所の管理者も対応する体制がつけられている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	現状、家族との交流会等の取り組みが行われていないため、今後に向けた取り組みに期待したい。また、ホーム便りについても、より伝わりやすくするような工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務等で話し合い、問題の解決に取り組み、働く意欲、質の向上に繋がるよう努めている。	随時の職員間の意見交換等の時間をつくっている。職員からの意見等は管理者が把握し、法人の担当職員との毎日の意見交換を行いながら、運営への反映につなげている。また、休憩時間等を活かした、職員面談の機会もつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を把握し、個々の能力の見極めに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の機会を与えたり、知識や経験にあった講習会、研修会に職員交代で参加し、ホームでの勉強会に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講習会を通じ、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人、家族と面接し、今までの生活、住宅環境を知り入居後もできるだけ変わらない生活をして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい環境をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	このホームで出来る事を見極め、他のサービス利用を調整している。入居前に受けていたサービスを継続させた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし、学び、支え合いながら、利用者の得意の事を発揮できる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時、近況報告をし、利用者と共に過ごしやすい空間作りをする。又、家族と参加できるよう行事に誘う等、交流を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂けるような環境を整えており、居心地の良い場所の提供に努めている。家族や馴染みの方と関係が継続できるよう手作りの年賀状をだしている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、交流の機会がつけられている。家族の協力も得ながら、行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族との食事や買い物をはじめ、自宅で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、相性を考慮しての空間作りにより、助け合う姿が見られる。時にはスタッフが間に入り会話の懸け橋になるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じ相談、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションの中から希望、意向を見出し、実行できるように検討している。	職員間で担当制も活用しながら利用者に関する把握が行われており、毎月の報告書の作成が行われている。日常的に職員間で意見交換を行っており、意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までのサービス利用状況、生活歴、家族アンケートがいつでも閲覧できるよう、個人情報保護のもと、まとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを個々に記録し、職員同士の情報交換を密にとっている。又センター方式も活用している。特変時は、通達用件も活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録、申し送り、担当者会議等で意見を出し合い、作成している。	介護計画は6か月での見直しが行われており、変化に合わせた見直しも行われている。モニタリングを毎月実施しながら、変化の把握が行われている。また、職員間で情報を共有し、日常の記録に反映につなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を詳細に検討し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制のもと、訪問マッサージ利用等、本人、家族の要望に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の公共施設、馴染みの喫茶店を利用している。ボランティアの慰問を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の他、入居前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう、複数の医療機関と関係を結んでいる。	協力医による訪問診療等が行われているが、多くの方が今までのかかりつけ医を継続しており、受診や往診等の対応が行われている。受診支援については、ホーム職員による対応も行われている。また、協力医療機関の看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と相談し、ケアに活かしている。必要に応じ系列施設の看護師、又は、訪問看護を利用できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を提供し医師、ケースワーカー、家族と情報交換しながら早期退院に結び付けている。可能な限り面会に行き、必要時は、家族の代行をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、ホームで出来ること、出来ない事を説明し、医師、家族等と相談しながら状況に応じては看取りの相談に応じている	ホームでの看取り支援については、利用者の身体状況や家族の意向等にも合わせて対応することとしている。家族との話し合いの過程では、協力医による説明等の対応も行われている。職員研修については、必要に合わせて実施することとしている。	現状、複数の方が重度の身体状態であり、居室での生活が中心になっている方もいる。職員研修等の取り組みを行いながら、利用者への継続的な支援につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、勉強会を行なっている。外部研修会に参加し、その後、勉強会に繋げている。消防職員を招き、AEDや心肺蘇生法を学んだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を、利用者と推進会メンバーと共に行ない、避難経路の確認をしている。運営推進会議において、地域の協力を働き掛けている。災害時に備え、持ち出し袋を準備している。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の取り組みが行われている。運営推進会議を通じた訓練の実施も行いながら、ホームの現状を知ってもらう機会にもつなげている。ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホーム建物の階段が急であり、2階に重度の方が生活している現状もあるため、地域の方をはじめ、外部の方とのホームからの継続的な協力関係への働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法の元に、自尊心、プライバシーを損ねることのないように心掛けている。個々のふれられたくない事を把握している。	理念の内容を振り返りながら、職員が優しい気持ちで利用者と接することができるように、管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。また、接遇面に関する振り返りの勉強会の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で話しかけ、複数の選択肢から希望を聞くよう努めている。表情、仕種、行動の変化を見逃さないよう注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の流れの中で、可能な限り利用者の体調や習慣、リズムに合わせての生活支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の意向を元に好みの服、好みの髪型等、個別の身だしなみや、おしゃれを支援している。訪問美容の活用。化粧品を使っての肌の手入れ、浴衣を着て外出する機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて買い物や、皮剥き、笹がき、味見を一緒に行い、食事への興味や楽しみへと繋げている。散歩で土筆を取り、一緒にはかまをとる等、季節の食材を楽しんで頂いている。	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好にも配慮している。おやつ作りや誕生日に合わせた食事等の他にも、利用者の身体状態に合わせたミキサーやトロミ等の食事形態の提供も行われている。食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、体重の増減に注意し、個々の状態に合わせて摂取しやすいよう、食事形態や食器等の工夫をしている。医師の指示のもと栄養補給剤で補える体制ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、個々に合わせた口腔ケアを行なっている。不定期ではあるが、口腔ケア綿棒を使用し、口腔ケアの日を作っている。臥床前にも口腔ケアを行っている。食事前後に手洗い、うがいをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつ使用を減らせるよう、トイレでの排泄に向け支援している。1日の中でもパンツ、パッド等の使い分けをしている。	A3サイズの記録用紙に利用者の排泄に関する記録を残しており、職員間で情報を共有しながらトイレでの排泄の継続に取り組んでいる。居室での生活が中心になっている方についても、随時の対応が行われており、排泄状態の維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のリズムを把握している。乳製品や繊維質、又は水分摂取を利用者に合わせ提供し、腹部マッサージ、体操、歩行運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の排便のリズムを把握している。本人の体調や希望を確認し、入浴をすすめている。安心して入浴して頂けるよう、個々に手摺り、椅子、マットの調整をしている。	利用者の身体状態にも合わせながら、週3回の入浴ができるような取り組みが行われている。時間は午前と午後に対応している。また、重度の方も職員複数の体制で介助を行いながら、可能な限り浴槽に入ってもらおう対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとっての自然なリズムが生まれるよう、日中の活動をたかめている。個々の体力を考慮し、臥床時間をもうけている。寝具類を清潔にしている。居室の室温、湿度の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が個人記録の中にファイルしており、いつでも確認できるようになっている。薬の変更時は要観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の有する力を活用できるような役割がある。季節に応じた行事、気晴らし(カラオケ、散歩、喫茶店、買い物等)を支援している。 利用者個々の能力に応じたレクリエーションや家事参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力を頂きながら、可能な限り外出を支援している。家族との外泊を楽しんだ方、又、系列施設の行事に参加している。家族と旅行に出掛けられた。	ホームの近隣に公園があり、利用者の日常的な散歩の場所にもなっている。日常的に外出の機会をつくり、買い物にも出かけてる。また、離れた場所にある法人の関連事業所で行事が行われる際には、ホームからも利用者とは出かける取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持している方もいるが、基本的にはホームが管理している。希望に応じ使えるようにしている。職員の見守りの中で買い物時の支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を元に電話の支援をしている。年賀状を毎年だしている。家族の協力で、手紙のやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花や野菜を植えた。リビング、フロアには、季節感あふれる利用者、職員手作りの作品を展示している。時には季節の草花を飾っている。	ホームのリビングは広い空間が確保されている他にも、リビング以外に過ごすことができる場所が確保されており、他の方と離れて過ごすこともできる。リビングた通路の壁には、季節感に配慮した飾り付けや利用者の作品、行事の写真等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ソファを自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考慮しての配置を、利用者、家族と相談し、馴染みのある家具、写真、小物等を使用している。居室対応の方、家族と本人の希望でテレビの配置してある居室もある。	居室には、馴染みのある家具類やテレビ等の持ち込みが行われている方がいるが、シンプルな雰囲気の方もあり、利用者、家族にも合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の状況等にも合わせた布団で寝起きする生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を活用し、出来る事を見極め、手を出し過ぎない支援に努めている。トイレ、居室がわかりやすいよう表示してある。		